

## 第5節 勝沼地域の寺社と年中行事

### 1. 勝沼地域の寺社

勝沼地域の年中行事を考える前提として、まずは寺社の空間利用、そして地域の生活・生業などとの関係を中心に整理する。

#### (1) 神社

勝沼地域の主要な神社として、勝沼には雀宮神社と諏訪神社の2つの神社が鎮座し、かつての勝沼村、等々力村をそれぞれ氏子域としている。いずれも境内周辺<sup>1)</sup>に「宮前」「宮後」といった小字が分布している。

雀宮神社(図69)は、推古18年(610)に天橋立から勧進されたかつての勝沼村の氏神であり、氏子は約400戸である。昭和40年(1965)に勝沼中学校グラウンド増設に伴い、現在の地に移転した。本殿は南部下山大工の佐野喜内歌虎によるもので、文化7年(1810)に建立された<sup>2)</sup>。神社建築としては勝沼地域最大規模のものである。

諏訪神社(図70)は、旧等々力村の氏神であり、聖徳太子の命を受け、萬福寺を創建した調子磨をまつため建立されたと伝わる。境内には、養蚕に関する信仰である「蚕影山」の石碑が現在も受け継がれている。

他方、岩崎については、上岩崎の東南に上岩崎浅間神社が鎮座している。上岩崎を氏子域とし、毎年8月22日に火祭りがおこなわれている<sup>3)</sup>。火祭りは疫病除けを目的にはじまったが、現在の

上岩崎では火祭りや小正月に、子どもたちが神輿を担ぎ、町内を練り歩く際には、「道祖神さん舞い込んだ、どんどやどんどお祝い申せ、ブドウの豊作大当たり」また「道祖神さん舞い込んだ、どんどやどんどお祝い申せ、商売繁盛大当たり」という掛け声が鳴り響き、ブドウの豊作祈願との結びついたものになっている。

その他、より小規模な氏子域をもつ神社として、例えば横町(勝沼)には菅原道真を祀る天神社があり、境内には、養蚕神、道祖神なども設けられている。ただし、養蚕神については石碑が残るのみで、これを対象とした祭祀などは50年以上前からおこなわれていないという。また、境内脇には、シャッターに「横町共同防除組合」と書かれた倉庫が残り、神社周辺が横町の拠点であることがわかる。

こうした地域単位の神社以外に、各家が敷地内や畑に祀る「屋敷神」の信仰もみられる。祠は家ごとにさまざまな形態をもっており、それぞれの家の慣習のなかで信仰が続けられている。なお、屋敷神は勝沼地域に限らず広くみられるものだが、それが家の敷地だけではなく、畑(ブドウ畑)の一部にも祀られていることはこの地域に特徴的なことである。

なお、毎年のワインの仕込み開始にあたっては、各ワイナリーは神道の作法で醸造の安全と良質のワインができることを祈念するという。ワイナリーによっては神職に依頼し、祝詞奏上をおこ



図 69 雀宮神社



図 70 諏訪神社

なっているワイナリーもある。依頼する神職については、必ずしも地縁の神社とは限らないという。

## (2) 寺院

寺院は柏尾、鎌倉道周辺（岩崎）、甲州街道沿い、等々力寺町を中心に点在している。特に、大善寺<sup>4)</sup>と萬福寺<sup>5)</sup>は地域の拠点的な寺院であり、周辺の寺院の展開にも影響を与えてきた。

等々力寺町には9つの浄土真宗寺院が所在する。慶安元年（1648）、萬福寺の頭塔12坊のうち、9坊が浄土真宗東西分派の影響で大谷派に転じ、萬福寺から独立して移転したことに由来する。また、岩崎では旧鎌倉道などに沿って寺院が分布しており<sup>6)</sup>、南側の新道を中心とした現在の岩崎の空間構造において、かつての往来を反映したものとなっている。

さて、勝沼地域の寺院の特筆すべき特徴として、多くの寺院において境内とその周辺にブドウ棚が存在していることがあげられる（図71）。その多くは、住職、あるいは檀家や近隣住民によって現在でも甲州種が栽培され、収穫されている。また、大善寺では、寺院周辺の地域（柏尾、大和地域の一部）の住民とともにワイン醸造をおこなっており、専用の醸造設備なども備えている（第4章第2節参照）。ブドウ・ワインが生活空間のなかに当然のものとして位置づいていることに対する典型的な姿として理解できる。

なお、比較的新しい信仰として、菱山ではJAフルーツ山梨菱山支所脇に「慈幣天羅不動」が祀られている（図72）。菱山はデラウェアの普及によって養蚕業からブドウ栽培に転換し、ブドウ畑が急拡大した地域であり、昭和56年（1981）～昭和57年（1982）頃に組合長の発案によってこの不

動を祀りはじめたという<sup>7)</sup>。

また、大正時代に宮光園主の松本三良により、ブドウを病虫害から守るために散布するボルドー液を祀る「ボルドー神社」という小社が建てられた（現・メルシャン株式会社敷地）。

以上のように、勝沼地域の寺社は、一部は寺町なども集中的に分布するものの、基本的には地域内に広く点在している。地域の基幹的な生業が養蚕からブドウ栽培に移り変わるなかで、一部にブドウに関連する信仰的要素が取り入れられるといったこともみられるが、「慈幣天羅不動」などの新たな信仰を除けば、ブドウ栽培・ワイン醸造によって新たな地域特有の信仰が生まれるといったことは起こらなかったといえる。

## 2. 信仰関連石造物と講

### (1) 信仰関連石造物

勝沼地域の中でも勝沼には多くの信仰関連の石造物が点在している（第6章図14）。

特に、道祖神（図73）・馬頭観音は街道を中心に多数確認でき、この地域が交通の要衝であったことを反映している。道祖神のほとんどは球体の石をひとつ、あるいは複数積み重ねた丸石道祖神であり、山梨県東部において多数みられる形態のものとなっている。また、道祖神は区ごとに少なくともひとつは確認でき、道祖神場の周辺ではそれぞれの区が小正月（1月14日）にどんど焼きをおこなっている（後述）。

また、往来に関する信仰として馬頭観音（図74）、養蚕に関する信仰である養蚕神、火防に関する信仰として秋葉神、自然に関する信仰として



図71 境内にブドウ棚をもつ寺町の寺院（報恩寺）



図72 慈幣天羅不動



水神や山神、さらには庚申塔などが確認できる(図75)。養蚕神についてはいずれも石碑が残るのみで現在は信仰のすがたは確認できないが、水神などについては、小正月行事などにあわせて祭祀をおこなっている地区もある。

## (2) 講

同一の信仰をもった組織である「講」のうち、地縁的なつながりをもった組織である秋葉講、三峯講などは現在も一部の地区で維持されている<sup>8)</sup>。講に属する家では家の玄関などに毎年の御札が貼られ、祀られていることが多い(図76)。

## 3. 小正月行事： どんど焼きとブドウの枝

1月14日を中心におこなわれている小正月行事(道祖神祭り、どんど焼きなど)は、山梨県内では広くみられるものである。しかし、その形態はさまざまであり、勝沼町内でも多様な形が存在する。ここでは、特にブドウとのかかわりという観点から、調査対象地域におけるどんど焼きのあ

り方について整理する。

調査対象地域では区ごとにおこなわれており、大きく分けて3種類のどんど焼きに用いる「塔」が作られている(図77・表8)。

i) A 類型：薪材のうえに正月飾りなどを載せ、中心に竹を指し、しめ縄で囲む

層をなすように、ブドウの枝、その他の木、正月飾りを載せる。中心に長めの竹を刺していることが多い。また周囲をしめ縄で囲っている。

ii) B 類型：薪材の上に正月飾りを載せる

A をよりシンプルにしたスタイルであるが、その積み方は区によって異なる。

iii) C 類型：ドラム缶

ドラム缶のなかで古札などを燃やすことでおこなわれる簡略化したどんど焼きである。

このうち、勝沼ではA 類型・B 類型がほとんどであり、岩崎ではB 類型・C 類型がみられる。

いずれも、薪材としてブドウの枝を使っていることが特徴的である。提供の仕方は、各世帯が玄関先においたブドウの枝を役員が回収しどんど焼きをおこなっている区、一部の世帯がブドウの枝



図 73 道祖神



図 74 馬頭観音



図 75 蚕影神社



図 76 家屋に祀られた三峯神社御札(三峯講)

を提供する区などさまざまである。

ヒアリングによれば、かつては正月小屋<sup>9)</sup>を作っていたそうだが、高度経済成長期頃にブドウの栽培が広がるとその文化は次第に消えていったという。ただし、この時期にはブドウの枝は各世帯で薪材として利用していたため、どんど焼きに

供されることはほとんどなかった。ガスが普及し、生活するうえで薪材が不要になるなかで、各世帯がブドウの枝をどんど焼きに出すようになったそうである。

こうしたことは、勝沼町内でも調査対象範囲外では稲わらなどを用いた「オコヤ」と呼ばれる小



図 77 勝沼地域におけるどんど焼きの例

(上段左から勝沼4区、勝沼5区、勝沼6区、勝沼7区、中段左から勝沼8区(以上A類型)、勝沼1区、勝沼2区、下段左から勝沼3区、祝5区(以上B類型))



図 78 勝沼地域周辺におけるどんど焼きの例

(左から東雲12・13区、東雲3区、東雲5区)



表8 勝沼・岩崎における小正月行事（どんど焼き）

|    |     | 場所                | タイプ | 備 考                                                                                                                                                                  |
|----|-----|-------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 勝沼 | 1区  | 大善寺駐車場            | B   | ・ブドウの枝使用<br>・松を外側に、ブドウの枝及び古札などを内側に置く（化粧）                                                                                                                             |
|    | 2区  | 雀宮神社南側（忠魂塔前）      | B   | ・ブドウの枝使用                                                                                                                                                             |
|    | 3区  | 天神社境内（道祖神前）       | B   | ・ブドウの枝使用<br>・神主の祝詞（道祖神前）ののちに点火<br>・餅もくべる<br>・かつては正月小屋だった（竹を組んで製作）                                                                                                    |
|    | 4区  | 4区集会所前            | A   | ・ブドウの枝使用                                                                                                                                                             |
|    | 5区  | JA 勝沼支所西側空地       | A   | ・ブドウの枝使用<br>・薪材としてのぶどうの枝は軽トラ1台半程度<br>・「ヤグラ」と呼称                                                                                                                       |
|    | 6区  | シャトレーゼ勝沼ワイナリー東側空地 | A   | ・ブドウの枝使用<br>・45年くらい前までは正月小屋（旧雀宮神社境内）<br>・雀宮神社移転とともに現在の地へ<br>・ブドウの枝が入りはじめたのもその頃から<br>・薪材としてブドウの枝を使っていた時代は入らなかった（ブドウの枝は組で熱湯消毒をおこない、各家で消費。）<br>・正月小屋はブドウの杭を針金で固定して柱とした。 |
|    | 7区  | 庚申塔前              | A   | ・ブドウの枝使用                                                                                                                                                             |
|    | 8区  | 諏訪神社境内            | A   | ・ブドウの枝使用                                                                                                                                                             |
|    | 9区  | （不明）              | —   |                                                                                                                                                                      |
|    | 10区 | （不明）              | —   |                                                                                                                                                                      |
|    | 12区 | （不明）              | —   |                                                                                                                                                                      |
| 祝  | 1区  | 田草川橋下？            | —   |                                                                                                                                                                      |
|    | 2区  | （不明）              | —   |                                                                                                                                                                      |
|    | 3区  | （不明）              | —   |                                                                                                                                                                      |
|    | 4区  | （不明）              | —   |                                                                                                                                                                      |
|    | 5区  | 上岩崎公園             | B   | ・ブドウの枝使用（枝は古札などとともに役員が区内の農家から回収。各家1束程度を提供）<br>・道祖神の祭祀は道祖神前で（同様にブドウの枝を燃す）                                                                                             |
|    | 6区  | 三沢園西側道沿い          | C   |                                                                                                                                                                      |

※ A：積み上げ型 B：開い型 C：ドラム缶型

屋<sup>10)</sup>（図78）が設置されるなど比較的古い形態の小正月行事（どんど焼き）が残るなかで対照的な形態である。地域の資源を時代の変化のなかで極めて合理的に使用した結果として理解することができる。

#### 4. 「かつぬまぶどうまつり」の展開

ブドウシーズンの収穫に感謝する行事として「かつぬまぶどうまつり」（以下、「ぶどうまつり」とする）は毎年おこなわれている。県内外から多数の観光客が訪れ、平成30年（2018）におこなわれた第65回では約10万人が来場した。

現在のぶどうまつりは、ブドウ・ブドウジュース・ワインの無料配布（図79）、ブドウの種飛ばし、早食い競争、勝沼地域のすべてのワイナリー

によるワインの試飲など、観光イベントとしてのさまざまな催しがおこなわれる一方で、開会式前の「収穫感謝祭」、雀宮神社例大祭と神輿巡幸<sup>11)</sup>（図80）、そして、祭りの最後を飾る鳥居焼など、信仰色が強く、住民目線の行事も開催される。

特に、夕方～夜間に実施される鳥居焼は、観光客の姿はまばらであり、後述するように、地域住民に根ざした行事といえる。かつぬまぶどうまつりのポスターでは、鳥居焼と花火という構図が素材として定着しており、地域イメージの形成にも重要な役割を果たしている（図81）。

##### （1）ぶどうまつりの変遷

現在では観光イベントとしての色彩が強い「ぶどうまつり」であるが、開始当初は全く異なるものであった。ここでは、『広報かつぬま』のほか、新聞記事、ポスター<sup>12)</sup>などの関連資料をもとにその変遷を整理する。



図 79 ぶどう娘によるブドウの無料配布（平成 30 年）



図 80 観光ブドウ園を渡御する神輿巡幸（平成 30 年）



図 81 ぶどうまつりポスター（昭和 30 年代頃か）

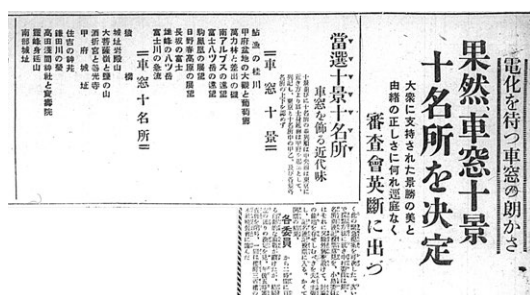


図 82 甲斐車窓十景の選出（山梨日日新聞／昭和 6 年）

『広報かつぬま』28 に掲載された「今昔 町長の手記より…ぶどうまつり」<sup>13)</sup>によれば、ぶどうまつり誕生のきっかけは、昭和初期に勝沼町と祝村の青年有志が葡萄郷旅行倶楽部を結成し、その会報に小林行男氏（のちの勝沼町長）が「葡萄祭の提唱」を掲載したことにあるという。

その後、中央本線電化を記念して昭和 6 年（1931）に山梨日日新聞社が企画し、新聞読者による投票などで選出された「甲斐車窓十景」のひとつとして「甲府盆地の大観と葡萄郷」が選ばれ<sup>14)</sup>、勝沼地域も観光地として注目されるようになった（図 82）。

こうしたなかで、保勝協会と旅行倶楽部が中心となり、勝沼地域の観光地としての発展のためには宣伝を兼ねた行事をおこなうべきということになった。そして、昭和 9 年（1934）に雀宮神社の祭典日を 10 月 26 日から 15 日に移動させたうえで、この宣伝行事と一体のものとして開催しはじめたことにあるとされる。

戦後になり、昭和 29 年（1954）に勝沼町が発足<sup>15)</sup>すると、これらは「町制祭」として位置づ

けられた。現在は 10 月第 2 日曜日に開催されているぶどうまつりであるが、町制祭となったのちも 10 月 15 日を中心に開催され、回を重ねるごとにその前後に関連するさまざまな行事（農産物品評会、葡萄郷一周駅伝、弓道、柔道、相撲、撮影会など）がおこなわれるようになった。

また、町制祭の登場により、従来、個別におこなわれていた民俗行事（神輿巡行、大善寺を中心とする鳥居焼など）も、町制祭というひとつの括りのなかで開催されるようになった。例えば、第 2 回町制祭における町長式辞では以下のように述べられている<sup>16)</sup>。

今回の第 2 回町制祭施行に際しまして各位よりの御理解により、氏神様の祭りも一緒に統一して行ふことになりました、従来は勝沼東雲地区は十月十五日、祝地区は十七日、菱山地区は十一月三日でしたのを統一して、全部十月十五日に執行ときまりました、この事は、非常に意義深い出来事だと思ふのです、これこそ町民の皆様が新しい町作りを良く理解され、協力された現れだと思いま



83

に根ざしている。他方で、お祭り広場では昼間にワインやブドウの無料提供がおこなわれ、県内外から多くの観光客を集客する。現在のぶどうまつりは観光イベントとしての色彩が強いが、その背景には、半世紀を超える時間のなかで、時代の変化に応じて、地域の伝統文化／基幹的生業（ブドウ・ワイン）／観光という勝沼地域の3つの重要な要素を結び、観光地形成にも大きな役割を果たし続ける祭りとして位置づけることができる。

## （2）現在の収穫感謝祭

現在のぶどうまつりでは開会に先立って、収穫感謝祭がおこなわれている。ブドウ・ワインの収穫・醸造に感謝しておこなわれる行事である（図84）。祭典には勝沼地域の以下の神社が関係し、勝沼町神主会によって斎行される。

- ・雀宮神社（勝沼町勝沼 2107）
- ・古宮太神社（勝沼町菱山 372）
- ・諏訪神社（勝沼町等々力 1571）
- ・通神社（勝沼町中原 767）
- ・五所大神社（勝沼町勝沼 3553）
- ・氷川神社（勝沼町上岩崎 2628）
- ・伏木神社（勝沼町小佐手 1028）

各神社の神主、氏子代表、ぶどうまつり実行委員会の役職者のほか、農家代表としてJAフルーツ山梨、ワイナリー代表として勝沼ワイナリー協会が出席する。

JAフルーツ山梨からブドウ1箱、勝沼ワイナリー協会からワイン（赤・白、720ml）が献饌されたのち、地域の安寧とブドウ収穫などに感謝する祝詞奏上がおこなわれる（表9）。ワインの献饌にあたってはコルク栓が抜かれ、撤饌時に再びコルクが閉められ、ブドウ・ワインの収穫感謝祭



図84 収穫感謝祭（平成30年）

としての特徴といえる。

## （3）鳥居焼行事と中学生ランナー

ぶどうまつりを締めくくるのは鳥居焼（図89）である。点される火は大善寺で熾され、勝沼中学校の生徒で構成される聖火ランナーによって柏尾山の「鳥居平」と呼ばれる斜面に点される。鳥居焼がおこなわれた当初は勝沼の青年団が聖火ランナーを務めていたが、その後、勝沼中学校の中学生が務めることとなった。

ここでは、平成29年（2017）及び平成30年（2018）におこなわれた聖火リレーのようすについて報告する。

大善寺で点火され、住職によって分けられた松明（図90）は勝沼町の4地区（勝沼、祝、東雲、菱山の小学校学区）それぞれの代表生徒1名が受け取り、各地区の小学校で聖火ランナーへと

表9 かつぬまぶどうまつり収穫感謝祭次第（平成30年）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一、修祓                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 一、降神の儀                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 一、斎主一拝                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 一、献饌                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 一、祝詞奏上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 一、ぶどう奉献<br>JA フルーツ山梨代表理事組合長代理専務理事                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 一、ワイン奉献<br>勝沼ワイン協会会長                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 一、玉串奉奠<br>ぶどうまつり実行委員会会長（甲州市長）<br>ぶどうまつり実行委員会副会長（甲州市議会議長）<br>ぶどうまつり実行委員会副会長（甲州市副市長）<br>ぶどうまつり実行委員会副会長（甲州市教育長）<br><br>山梨県議会議員<br><br>JA フルーツ山梨代表理事組合長代理専務理事<br>勝沼ワイン協会会長<br><br>ぶどうまつり実行委員会実行委員長<br>ぶどうまつり実行委員会副実行委員長<br><br>雀宮神社氏子総代<br>古宮太神社氏子総代<br>諏訪神社氏子総代<br>通神社氏子総代<br>五所大神社総代会長<br>氷川神社総代会長<br>伏木神社総代会長<br>大石神社総代会長 |
| 一、撤饌                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 一、斎主一拝                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 一、昇神の儀                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |





図 85 ブドウ畑を照らす鳥居焼（平成 30 年）



図 86 大善寺で住職により分火される松明(平成 29 年)

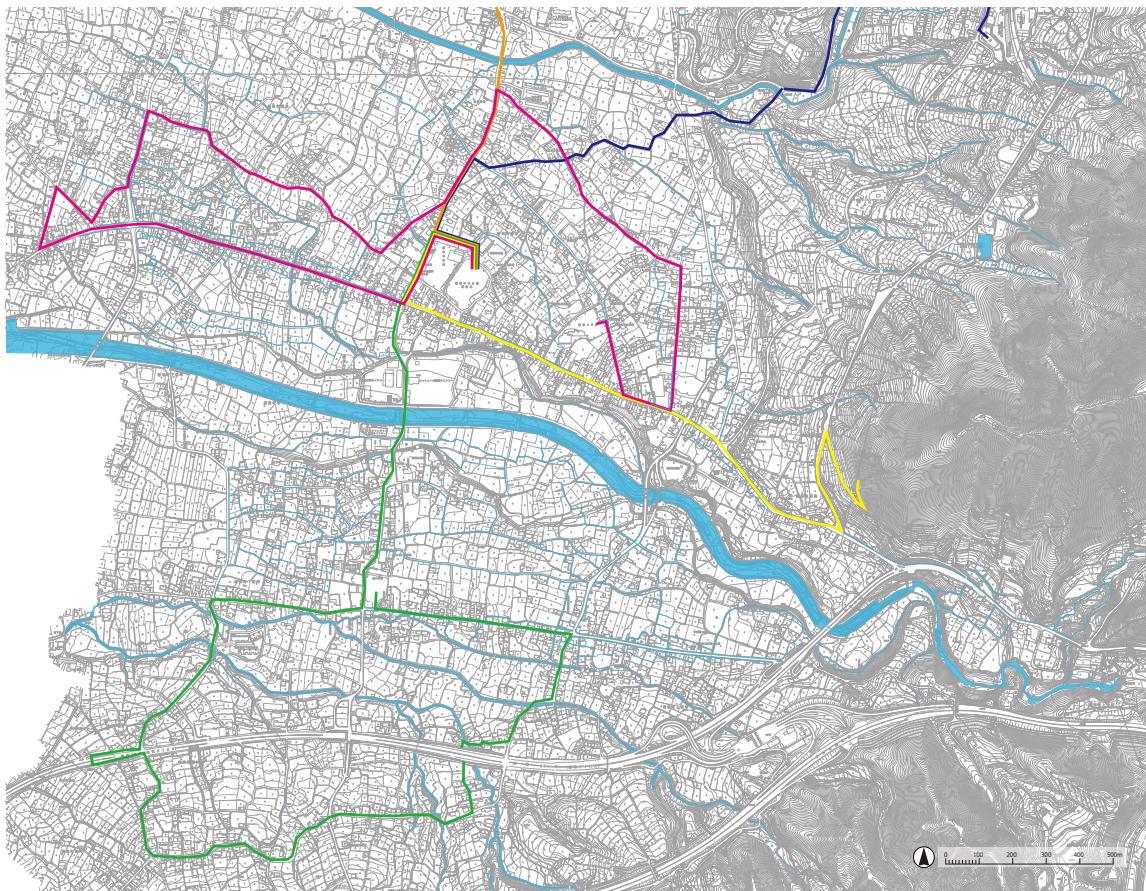


図 87 鳥居焼における聖火リレーの順路（平成 29 年）

次がれて消防車の誘導のもとで勝沼地域を駆け巡る（巻頭図版 N、図 87）。勝沼地区の聖火ランナーは1年男子生徒と1～3年の女子生徒の2列体制で構成されており、並び順は学年ごとの背の順で3年生の女子からはじまり、1年男子が最後尾につく。

各地区を巡った火はぶどうまつりの会場である勝沼中央公園でひとつに合わさり、ぶどうまつり実行委員会会長と委員長によって再び聖火ラン

ナーへと分けられる。中央公園から柏尾山までは甲州街道を経て急斜面を2～3年の男子生徒が急ピッチで駆け上がる。辿り着いた斜面では事前に指導された順番で護摩木に火が灯される（図 88、89）。すべての護摩木が点火され鳥居の形ができあがると山の北側では花火が打ちあがり、ぶどうまつりのフィナーレを飾る

走っている際「いーち、にー、いちにさんしっ」と先頭が声を掛けはじめると後も続いて声をあ





図 90 急斜面の鳥居平で点火をする中学生(平成 29 年)



図 90 揃いの鉢巻きを身につけた中学生(平成 29 年)

げる。沿道では近隣の住民がエールを送る姿がみられ、祝地区では聖火ランナーの前後についている消防車がエールに感謝を伝えている。聖火ランナーには、「かつぬまぶどうまつり」と書かれた鉢巻き(手ぬぐい)が毎年配布される(図 90)。

平成 30 年(2018)のぶどうまつりで聖火ランナーを務めた中学 1 年生の男子は「事前に聞いた時より暑くきつかったが、楽しい」「自分たちの運んだ火が鳥居焼になることに誇りを感じる」と語っていた。

近年のぶどうまつりは、ワインのふるまいなど観光イベント的な傾向が強い。しかし、まつりの最後におこなわれる鳥居焼の行事で重要な役割を担うのは地元の中学生であり、それを支えるのは地域住民である。鳥居焼という伝統行事が地域住民によって受け継がれ、そこで中学生の時に聖火リレーに参加した経験は勝沼地域の出身者のアイデンティティとなっていることは時代を通じて変わりはない。(菊地淑人・高橋瑞季・岩田美耶)

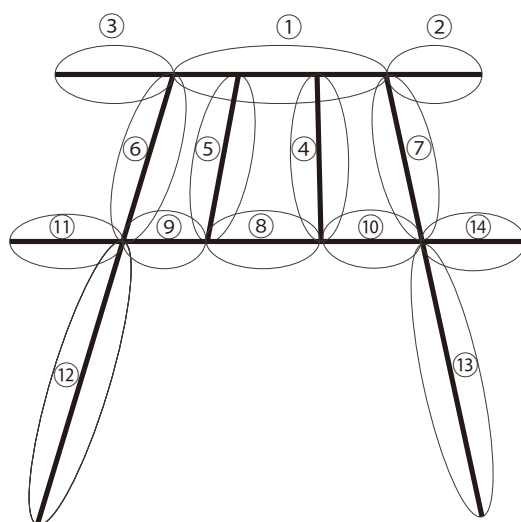


図 89 鳥居焼の点火の順番(平成 30 年)

- 3) かつては下岩崎の一部(田中組、北組など)にも世話人がおり、祭典費を集め、松明造りにも関わっていたという(『勝沼町誌』p.1103)。
- 4) 養老 2 年(718)に行基が開創した。真言宗智山派。
- 5) 推古 12 年(604)創建。鎌倉時代に浄土真宗の中本山となった。
- 6) 岩崎には宗派の異なる 4 つの寺院があり、そのすべてが旧鎌倉道に沿って、あるいはその付近に立地している。
- 7) 丸尾依子「ブドウにまつわる民俗の変化と現状」『葡萄と葡萄酒』山梨県立博物館、2016 年、pp.128-133。
- 8) こうした講組織は輪番で代表して秋葉神社、三峯神社などを参拝し、すべての世帯の御札を受け取ってくる代参に加え、かつては定期的な食事などもおこなっていたこともあるという。
- 9) 子どもが正月に自分の小屋を守りながら、別の区の小屋に火をつけるという遊びをおこなっていた。
- 10) 小佐手、錦塚など。上野晴朗(1973)『やまなしの民俗 祭りと芸能』(下)光風社書店。
- 11) まつりパレードの一部としておこなわれる。まつりパレードでは、神輿のほか、ぶどう娘を先頭に、町内ごとの隊列などが練り歩く。
- 12) 過去のポスター類の一部を、デジタルデータとして甲州市が所蔵している。また、近年のものについては甲州市立勝沼図書館が所蔵している。
- 13) 勝沼町総務課(1962)『勝沼町弘報』28、勝沼町、p.2。
- 14) 葡萄郷保勝協会が支持した。
- 15) 東山梨郡勝沼町・菱山村・東雲村、東八代郡祝村が合併。
- 16) 勝沼町総務課(1955)『勝沼町弘報』6、勝沼町、p.1。
- 17) 勝沼町総務課(1958)『勝沼町弘報』20、勝沼町、p.1。勝沼町総務課(1962)『広報かつぬま』28、勝沼町、p.1。なお、広報では第 6 回～第 8 回町制祭に関する記事は掲載されていない。
- 18) 前掲註 13 文献。
- 19) この頃は青年団によるリレーであった。
- 20) 勝沼町企画課(1992)『広報かつぬま』376、p.6。

註

- 1) 雀宮神社については、中央公園付近に存在した旧境内。
- 2) 棟札の記載。



## 第6節 小結

勝沼地域では田草川（北）、日川、田草川（南）の3本の河川が西流し、北の田草川や日川は扇状地を形成し、その西部には平地が広がる。また、日川河岸には河岸段丘が形成され、現在は集落やブドウ畑が広がっている。

本章ではそうした地域の土地利用、建築、生活文化などの歴史的変遷と現在について整理した。

第1節では、地形の概要と土地利用の変遷を中心に検討した。

田草川（南）と田草川（北）の間には100～150mの標高差があり、日川が形成する河岸段丘南側の段丘崖からは田草川（南）に向かっては上り斜面となり、北側の段丘崖から田草川（北）に向かって下り斜面となり、その勾配は西側ほど緩やかとなる。甲州街道（勝沼宿）は北側の段丘崖付近の標高が高い地点を南西に配されている。

また、農地については、近世には多くが水田や果樹以外の畑地であったが、南西斜面地で気象条件もブドウに適した鳥居平周辺や扇状地堆積物ゆえに水はけが良い上岩崎などでは近世からブドウ栽培がおこなわれた昭和初期には水田や桑畑が転作され、その周辺もブドウ畑となった。さらに、戦後の高度経済成長期には需要の高まりとともに栽培面積は拡大し、勝沼地域周辺を含めて現在の一面のブドウ畑が形成された。

第2節では、生活・生業と水とのかかわりについて水系の歴史的変遷を中心に検討した。

勝沼地域では、水はけの良く、複雑な起伏を伴う複合扇状地の地形に起因して水の確保に工夫を要した。日川から取水された水は、地形の複雑な勾配を把握したうえで地域を密に張り巡らされたセギや水路を通じて、農業用水や生活用水が供給されてきた。近世の絵図や明治期の和紙公図には、縦横無尽に張り巡らされたセギ・水路が描かれている。これらは、農業用水のほか、生活用水、さらには近代に岩崎を中心に営まれた製糸業を支えた水車の動力ともなった。

第3節では、甲州街道沿いを中心とした町並み・建造物について検討した。

現在の町並みは明治時代から昭和時代の建造物とブドウ畑によって構成されていることが明らかとなった。街道に面した町家と土蔵に、その後に成長したブドウ産業が加わることで現在の景観が形成されている。また、街道沿いに観光ブドウ園が開園するなかで主屋の曳家などもおこなわれており、生業の変化によってさまざまな時代を反映した町並みが形成されている。

第4節では、商業の移り変わりという観点から勝沼地域の変遷を検討した。江戸時代の勝沼宿は甲州街道随一の規模と賑わいを誇る宿場町であり、宿場以外にも多様な商いが営まれていた。近代に入り、宿場の機能が失われたのちも甲州街道沿いはさまざまな店舗が並ぶが、大正時代以降、次第にブドウに関連する商売なども増加した。また、岩崎などでもブドウに関連する商売がみられるようになった。戦後には観光ブドウ園が増加し、甲州街道沿いなどでは多くの観光客が自動車で訪れているようすを記録した古写真も残されている。

第5節では、勝沼地域の信仰や年中行事について整理した。かつての中心的生業であった養蚕の信仰は石造物が残るのみですでに失われている。また、ブドウ栽培などに関する新たな信仰は、慈幣天羅不動やボルドウ神社などの民間信仰を除けばほとんどない。

また、毎年10月におこなわれるかつぬまぶどうまつりの一部で鳥居焼や地域の神社合同での収穫感謝祭がおこなわれるなど、信仰の一部は観光イベントとも結びついている。鳥居焼をみると、地域住民がブドウシーズンの終盤を実感するという。

このように、複合扇状地などの影響を受けた近世以前からの土地利用の基本的な特性を継承しつつ、その後の生活・生業の変化や拡大のなかで土地利用のあり方も緩やかに変化させてきたものと理解できる。

（山梨大学菊地研究室・甲州市教育委員会文化財課）

